

救命室 ハイブリッド化

検査・診断・治療 1カ所で

札幌東徳洲会病院(札幌市東区)は、「ハイブリッドER(救命室)」を導入する。従来のERに高度な検査機器を配備し、緊急度の高い救急患者をERから移動させることなく、迅速に検査、診断、治療を行う。道内初の試みで、来年春の運用開始を目指す。

札幌東徳洲会 道内初 来春にも

現在のERを650平方メートルから千平方メートルに増床。CT(コンピュータ断層撮影)や血管造影、エックス線の各装置を設置、手術も可能な運用を視野に入れる。感染症対策も考慮し、四つ設ける救急診療スペースはすべて個室とし、患者のプライバシーに配慮する。

これまでのERは、患者が到着後、救急医が検査が必要と判断すると、患者を病院内の別の検査室に移動させ、検査が終わると患者をERに戻して治療していた。さらに緊急手術の場合、手術室に移動させるため、診断の確定、治療開始までに時間を要していた。

札幌東徳洲会病院も、混雑状況によってはCT検査に移動時間も含め最長で30分以上かかることもあるが、ハイブリッドERにな

れば最短で5〜10分に短縮されるといふ。

ハイブリッドERは国内では2011年に大阪急性期・総合医療センター(大阪市)で初めて導入。緊急手術の開始までの時間が平均で68分から47分に短縮され、死亡率も22%から15%に低下した。ただ、多額の整備費用がかかるため国内では現在、十数カ所の医療機関しか導入していない。

ハイブリッドERは早急な診断、治療開始が求められる交通事故や脳卒中、大動脈解離などの患者の救命率向上が期待されている。

道内には、重症・重篤の救急患者に対応する3次救急機関は13カ所ある。札幌東徳洲会病院は2次救急機関(道内約290カ所)だが、ハイブリッド化で、より3次救急機関に近い患者

の受け入れができるようになる。

札幌東徳洲会病院の松田律史・救急科部長は「ハイブリッド化で患者の状況が早く分かる。より多くの患者の救命治療に当たりたい」と話している。

(編集委員 荻野貴生)

栗山監督を祝福 栗山でパレード

来月25日

【栗山】空知管内栗山町の町民有志は6月25日、野球のワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で優勝した日本代表監督の栗山英樹さん(62)を祝福するパレードを同町で行う。

パレードは午前11時、栗山さんのあいさつの後にスタート。JR栗山駅前を出発し、駅前通りの商店街450メートルを1時間かけて行う。終了後、子どもたちとの交流会を検討している。

栗山さんは2002年に町内に少年野球場「栗の樹ファーム」を整備し、12年から町内を生活の拠点にしている。同町での栗山さんへのパレードは、プロ野球北海道日本ハムの監督時代に

夏の大輪GLAYが彩る

【函館】北海道新聞函館支社は

8月1日の函館港まつり初日に

かけに協賛が実現した。

「GLORIOUS MILLION

DOLLAR NIGHT」と題した第

3部で、大玉や仕掛け花火と、G

LAYの曲が「共演」する。TE

家具のデザイン
楽しんで学ぼう

毎週「ワイワイ